

ロジックモデル

課題／目的

- 国連の枠組（ESDの10年等）に対応したESD国内実施計画等に基づき、全国的なESD支援のためのネットワークが必要。
- 日本の環境意識は他国と比べ低く、現状の危機感が弱い傾向。気候変動問題は、特に危機的状況にあり、迅速な対応が必要。
- ESDネットワークの全国的な展開、複層的なネットワーク支援等により、重点的に気候変動教育を推進して、気候変動教育を切り口にしたESDを効果的に推進。
- 気候変動教育は、地域特性に応じた実践的な学びを通じて、気候変動対策の自分事化を図る必要がある。

インパクト

- ESDの取組が進み、普及が進むことにより、受講者は、学びを通じて**環境に配慮した行動などの意識や行動の変容が起きる。**
- 気候変動教育の主流化、実践を通じて、ネイチャーポジティブ、循環経済の各環境施策のシナジーも発揮して、各社会課題を自分ごととして捉えることにより、**自ら行動できる人材が増え、持続可能で脱炭素な社会が構築できる。**

インプット

【予算額】 令和6年度当初：107百万円
令和5年度当初：106百万円

アクティビティ

- ①全国センター運營業務
国内外の情報収集及びウェブサイト運用、連絡会や作業部会等の地方センターとの連携、ESD推進ネットワーク全国フォーラムの開催、地域ESD活動推進拠点の強化・形成支援等
- ②地方ESDセンター運營業務
地域のESD実践者の相談対応、情報発信、実践団体と連携した学び合いプロジェクトの企画・実施、地域フォーラム開催、ESD地域拠点の活動支援等

アウトプット

活動目標：ESD関連事業等によるESD活動の推進
活動指標：ESD関連事業等開催・実施回数

アウトカム

- 短期：（成果目標）ESD活動実践者がESDセンターに相談することによる環境教育・ESDの実践数及び質の向上
（成果指標）ESDセンターの相談対応件数
- 長期：（成果目標）ESDの普及
（成果指標）自身が、これまでの環境教育等で環境や社会の問題に対する意識や行動に変化があったと答えた割合